



松本幸夫著 Yukio Matsumoto

納得しないと動かない症候群

Forest  
**2545**  
*Shinsyo*



はじめに——なぜか休憩してくれない若者たち

世の中がおかしな方向に向かおうとしています。

すでに行き詰まりを見せている政治や経済ですが、このままではさらにとんでもないことになりそうです。財政破綻寸前のギリシヤどころの騒ぎではありません。そろそろまずいです。

おそらく、その「原因」に気づいている人はごくわずかでしょう。ただ、潜在的に感じている人はたくさんいらっしゃるかもしれません。

私は人財育成コンサルタントとして、また作家として、さまざまなところで講演やセミナーを開催しています。とくに27年以上にわたっていろいろな企業の新入社員研修を

行ってきました。そして最近になり、この病的ともいえる症状を目にするようになったのです。

ある研修でのことです。

「では、これから10分間休憩に入ってください」

そう言ったあと、私は自分の目を疑いました。小学生のように「ワーツ！」と騒ぎだして、消しゴムのキャッチボールでもしてもらったほうがまだよかったかもしれません。むしろその逆でした。

誰も席から離れようとしな——。

しかも、シーンと黙ったまま。

意味がわかりません。

なぜ休憩だと言っているのに、席を立つ人が1人もいないのか……。

「まだまだ研修は続きますので、今のうちにトイレに行ったり、自動販売機で飲み物を買っておいたほうがいいですよ」

そう言うと、ようやく1人、2人、3人と席を立ち、続けて全員が動きだしました。些細な出来事かもしれませんが、私の心の中になんともいえない不安を抱かせた瞬間でした。

そしてその後、幾度となく同様の経験をしました。例外と思いたったのですが、これだけ繰り返されると、もはや若者特有の気質としかいえないのではないかと、とも思えてきました。

なぜ、誰も動こうとしないのか――？

私は考えました。しかし答えは出ません。出るわけがありません。

そこで思いきって、しかしおどおどしながら受講者に、

「なぜ休憩しようとしらないのですか？」

と聞いてみました。

私は、その答えの衝撃で思わず尻餅しりもちをつきそうになりました。

「なぜ休憩しなければいけないのか、よくわかりません……」

これまで、若者に対して「なぜだろう？」と思ったことをいろいろ思い返してみたところ、このひと言ですべてが腑に落ちました。

そうか、だから彼らはあのとき動こうとしなかったのか……！

私はこの症例に名前をつけて徹底的に研究することにしました。

### 「納得しないと動かない症候群」

ふざけたネーミングかもしれません。しかし、研究を進めれば進めるほど、私は暗澹たる気持ちになり、彼ら自身や日本の将来を憂いました。

なぜなら、この症候群が蔓延すれば、道徳的価値観や上下関係といった日本らしい慣習がことごとく破壊され、合理主義と怠慢がはびこるとんでもない国になるからです。

おそらく、経済活動は今よりもさらに失速するはずです。その先にある未来など、想像したくありません。

そこまで大きな話にしなくても、我々のもっと身近なこと、たとえば会社組織やビジネスにおいて考えたときも、私にはどうしても明るい未来が見えないのです。

ぜひ、みなさんもこの症例について考えてほしい。

「そういえば、オレの部下も……」

「もしかしたら私もこの症候群にかかっているのではないか……」

そんな気づきがあることでしょう。

本書では、「納得しないと動かない症候群」の症例や恐ろしさ、処方箋などを私の体験と研究をもとにお伝えしていきたいと思えます。

おバカな話だ、などと突き放すのは早計です。読んでみれば、身につまされることは間違いありません。

私も年をとったのか、理解できないことが増えてきました。

しかし、「今時の若者は……」「オレの若いころは……」などと、若者論を一席ぶつのは、かつて若者であった私としても反発を覚えます。「若者」を一括りにしてダメ出しするのは乱暴極まりない。上から目線の身勝手な意見です。ただ、「納得しないと動かない症候群」というフィルターを通して「若者」を眺めることで、これまで無意識レベ

ルでしか認知できなかった問題がはじめて顕在化し、対処できるようになるのも確かなことです。

本書は若い部下を持つ30代以上の方々に向けて書いていますが、中には間違っ  
た20代の方もいらっしゃるかもしれません。少し辛辣しんらつだったり、上から目線と感  
じるところもあるかもしれませんが、近所の飲み屋のオヤジが酔っ払ってワーワー騒いで  
いるなあ、くらいに思っようしゃてご容赦ようしゃいただきたい。

ただ、どうしても「納得しないと動かない症候群」について書かなくてはならない  
……！

そんな作家、いや日本人としての使命に衝つき動かされていることをどうかわかって  
ください。



納得しないと動かない症候群\*もくじ

はじめに——なぜか休憩してくれない若者たち 3

第1章 「納得しないと動かない症候群」とは何か？

納得しないと動かない世代 18

理由を説明しないと席替えをしない 20

ギャグへの評価レベルが異常に高い 22

「上から目線」の原因は「納得」しないから 24

欽ちゃんの時代との圧倒的な差 26

「そんなこと、どこにも書いていませんよ」 29

乗務員も納得してくれない 32

もう一度、幼稚園生からやり直そう 35

「人間みな平等」という間違った教え 37

教訓や教えよりも「結果」や「ノウハウ」 39

意味がないからと否定する || 42  
「行動力」と「知識・能力の高さ」のマトリクス || 44

## 第2章

「納得しないと動かない症候群」の恐ろしさ

年間3万人以上の自殺者の中には…… || 52

「納得しないと動かない症候群」が日本をダメにする？ || 54

麻生太郎の「失言」と「正論」 || 56

面接ではウソつき、入社後はバカ正直 || 59

若者の琴線に触れる言葉「ノマド」 || 61

会社を潰さないために猪木のビンタを || 63

「聞いているのか」と怒ると、じつは聞いている || 66

なぜ世間話ができないのか？ || 68

資本主義の原理に支配された「無駄」思考 || 71

若者の浮世離れ || 73

「自由」の定義が狂っている || 77

### 第3章 なぜ彼らは「納得」しないのか？

行動しない理由を見抜く 82

恐さから逃れたい 83

「成功したくない」という若者たち 87

ユデガエル・シンドローム 89

彼らはつねに「スキリ」を求めている 90

日本性教育協会による衝撃の報告 92

考えるのが面倒 96

池上彰人気の背景 99

夢は「南の島でのんびり暮らすこと」 100

働くことの意味を知らない 102

新型うつ病の兆候？ 105

アスペルガー症候群との奇妙な一致 110

じつは体力がないだけかも 114

「やさしい」ではなく「気が弱い」だけ 118

タフじやなきや生きていけない 121  
指示待ち族世代との差 124  
本質を見抜く眼はあるが…… 125  
夜中の赤信号を渡る？ 127

#### 第4章 若者の体質を改善させる

「納得しないと動かない症候群」を治療する 132  
無反応人間から脱出させるためにとにかくうなずかせろ 133  
アー、ウツ、ホーなどと言わせる 136  
究極の内弁慶を变身させる 139  
ゴリの指導に学ぶ 142  
一切れのニンジンをぶら下げよう 144  
先のぼし癖を退治する 147  
ジョブズは気づかせてくれる 148  
自分に鞭を打たせる 152

もういつそのこと「納得」させない 154  
彼らは意外にもチームに飢えている 155  
リーダーに求められる新たな資質 158

## 第5章 「納得」させるためにあなたがすべきこと

- 上司であるあなたにもメリットがある 162  
納得させる上司の話し方3大ポイント 163  
断定表現を使って自信を示す話し方をする——納得させる上司の話し方① 164  
短文で話すよう心がける——納得させる上司の話し方② 165  
力強い声で話す——納得させる上司の話し方③ 167  
上司の指示の出し方3大ポイント 168  
「ニューステーション」式納得力——仕事の頼み方① 169  
クドいくらいが丁度いい——仕事の頼み方② 172  
プライドには触れないように——仕事の頼み方③ 175

くだらないことでもホメる 176

効果的なホメ方3大ポイント 178

ホメたら必ず理由を説明せよ——ホメる技術① 180

これまでホメられていない点を探してホメよ——ホメる技術② 182

第三者にもホメておけ——ホメる技術③ 183

逆ホウレンソウ 184

「人生の先輩」としての自覚を持つとう 186

災難こそ喜ぼう 189

自分に厳しくすれば、他人にも厳しくできる 191

おわりに——若者はあなたの指導であなたを越える 195

カバーフォーマット \* panix(keiichi saito)

カバーデザイン / 漫画 \* 河村 誠

編集協力 \* 飯田達哉 (office try-i)

DTP \* 閏月社



第1章

「納得しない」と  
動かない症候群  
とは何か？



## 納得しないと動かない世代

自分が子どものころ、親から「おつかい」を頼まれると……。

「幸夫、コロッケ4枚買ってきて。普通のでもいいからね」

「ハイ」

と答え、私は10円玉を何枚か渡されて買いに行く。古い話です。

小学校で先生から言われる。

「学校に来たお客さまには、キチンとあいさつしなさい」

子どもは皆「ハイ！」と元気よく返事をする。

親にでも先生にでも、「しなさい」と言われたら、言うことをよく聞くのは「当たり前」でした。

ところが、今はどうでしょう——？

私の子どもが小さかったころに、買い物頼みました。

「おつかい行ってきて」

すると、私のころの「ハイー！」などという返事はまったくくない。

第一声は「何で？」。

小さな子どもですら、こうなのです。

何か行動する場合には、「理由」がハッキリしないと動かない。いえ、その理由が自分の「納得」いくものでなければ、なかなか腰を上げようとしないので。

果たしてこれは「良いこと」なのでしょうか？

よく、慎重さの例えとして、「石橋を叩いて渡る」といいます。

しかし今は、「渡る理由がハッキリしないと渡らない」。もつといえば、「叩くことすらしない」という人たちが激増中なのです。

私は、研修講師という仕事を27年してきました。

毎年行っている新入社員研修の中で、「この傾向」があるのを感じていましたが、とくにここ5、6年は顕著けんちやくなのです。

この変化はいったい何を物語っているのでしょうか？ 私は何か恐ろしいものの前触れのように感じています。

これから社会に出る20代の若者はすべて「平成生まれ」になるので、極論したならば、「平成生まれは納得しないと動かない」ということになります。

50年近く前の私の少年時代と、いきなり平成の子どもを比較してしまうのは無理があるかもしれません。

しかし、比べてみたなら、この傾向は明らかなのです。

無条件に「ハイ」と言って、即行動することはまずない。

否、納得してから動くというパターンができてしまっているのです。

これから、その典型的な例をいくつか挙げていきましょう。

### 理由を説明しないと席替えをしない

「席替え」と聞いて、どこか甘酸っぱい感情がわき起こりませんか？

そう、小学生のときには「あの子の隣に座れるだろうか」とドキドキしたあのイベントです。

しかし研修での席替えはそんな下心とは違う、もっと大切な意味があるものです。2日、3日とつづくような長い研修だと、ずっと隣同士が同じ人であると困ることがあるのです。

男女のペアだといつの間にかデキてしまう恐れがあるとか、そういう問題ではありません。ペアで「売り手」と「買い手」になるワークをしたとします。すると、ずっと同じ相手だと、いわば「手の内」がわかってしまう。

あるいは、違う場所に座ることで、スライドや教室内の「見え方が変わる」「変化がつく」ということもあります。つまり、発想が広がっていくというメリットがあるので、じつと1カ所からだけで眺めているよりも、いろんな場所から眺めたほうが物事を多面的に理解することができます。

もちろん、公開の講義の場合、いろいろな人と知り合えるのも席替えのメリットです